

# 社会科部会

**研究主題** 社会的事象を自ら追究し、考え、表現し、  
進んで社会に参画しようとする生徒の育成

## 1 主題について

今年度は、新学習指導要領の改訂に合わせ、言語活動の充実が図られるように、新しい主題を設定した。

## 2 今年度の取組

月 日	実践内容	月 日	実践内容
4月11日	第1回総合研究会 研究主題設定・年間計画作成	10月29日	第2回総合研究会 授業研究会（比内中学校）

## 3 研究内容

### (1) 授業研究

- ・期 日 平成25年10月29日（火）
- ・会 場 比内中学校
- ・単元名 3年「国の政治のしくみ・裁判と人権」
- ・授業者 松山 尚紀

#### ① 授業者から

- ・死刑制度についての授業時数は、本来であれば1時間使わないのだが、今後の裁判員制度の中で、生徒が将来重要な事件を扱う可能性もあるため、あえて1時間扱いとした。
- ・教材研究をしていくと、死刑制度の在り方に対して、自分自身の考えもかなり揺らいだので、中学生には少し難しい題材であった。
- ・事前に他の学級で授業をしたところ、議論にならなかったなので、資料の出し方を変えた。また、個→グループ→斉と考えていたが、個のところに時間をかけていかないと議論にならないので、個で考える時間を多く取った。
- ・自分が思ったより生徒は自分自身の考えにぶれがなかった。
- ・感情論にならないように、資料を論拠にさせたかった。多様な見方があるということにも意味があったので、刑務官の話が生徒からでてきてほしかった。

#### ② 協 議

- ・加害者と被害者の立場に立って話している。この授業のねらいは「多角的に～」となっているので、一般社会の秩序というところから話せるとよい。
- ・感情論的な発言が見られるので、例えばアメリカの死刑制度廃止後の殺人事件数の増減のデータなど、客観的な資料があれば深まると思う。
- ・課題の予想をするための、もともになるものはなにか。立場をはっきりとさせ、考える材料があれば予想も変わるだろう。
- ・資料がないと生徒は経験だけで話をしてしまうため、客観的に話し合える資料を出せるとよい。



【死刑制度の在り方についての判断】

- ・教師側が一つのことに視点を絞りすぎた。それぞれの側の資料をもっと用意し、提示してもよかった。
- ・生徒の意見には、「再犯」「模範囚」「法律で裁く」「執行する」「えん罪」「社会復帰」などのいろいろな言葉が出てきていてよかった。
- ・一人一人が発言したり、聞いたりする場面が必要だが、今回はグループ活動を外してしまった。全体の話し合いでは、ただ聞いていた生徒も話したかったはずである。グループでの話し合いも必要であったのではないか。
- ・資料がないと練り合いができないと言っていたが、国民レベルでは「感情」、法に基づく「ルール」なので、それぞれに違った立場のものをグループで話し合わせたい。
- ・「死刑」と「殺人」は違う。
- ・導入がとてもよかった。また、ビデオも生徒の課題に対する意識を高めることができた。
- ・生徒の立場は、「YES」と「NO」だけか。その間はないのか。ディベートを行うのもおもしろい。

## (2) 指導助言（佐藤 政彦 指導主事）

- ・生徒は、大変反応がよく、発言内容もレベルが高い。
- ・最後に迷った3人の考えが大事であった。迷ったところの判断は、法に基づくものであり、人権をもとに判断させたい。そこから、裁判員制度の学習につなげていきたい。
- ・本時は、社会的な見方、考え方を深めるためには有効であった。
- ・討論は、テーマが命である。死刑は身近ではないが、日々の報道で命に関わる事件や事故について見聞きしている生徒たちにとっては、必要感があった。そのために関心が高まった。社会問題に真剣に向かう姿勢が見られた。
- ・授業の流れが、問題提起、予想、追究、まとめと生徒が主体的に活動できるものになっていた。
- ・法に基づくためには、加害者、被害者の感情論から離れた資料が必要である。しかし、出し過ぎは逆効果になるので、教材研究をして精選することが大切である。
- ・関わり合いについては、発言力の強い人のみが発言をしているので、他の生徒の関わりが薄くなった。教師のコーディネート力が必要である。教師がどのように発言をつなげていくかがポイントである。よい考えをもっている、全体の場で発言できない子をどう生かすのか、それは、机間指導で確認し、自信をもたせて発表させることが大切である。話し合いで重要なことの一つは、生徒指導の三機能をうまく生かしていくことである。
- ・真剣に話を聞き、よく考えるよいクラスであった。これは、社会参画に臨む姿でもある。本時の生徒の学ぶ姿を今後の研究に生かしほしい。

## 4 成果と課題

### (1) 成果

- ・資料の提示の仕方や、話し合い活動を通して、生徒の考えを深めていく授業展開の在り方について、研修を深めることができた。

### (2) 課題

- ・話し合い活動を活性化させるためには、資料をどこまで与えるのかよく考えなければならない。また、生徒の考えを深めていくためには、生徒の意見をつなげていく教師のコーディネート力が必要である。